

# 図画工作科研究実践授業

下伊那大会研究テーマ

思いつながる 広がる 私の造形ネットワーク

～自分らしさを楽しむ授業へ～

図画工作科研究テーマ

自分なりの意味や価値を探究し、様々な表現方法を楽しむ子ども

日時 令和2年7月17日 3校時

単元名 クミクミックス（造形遊び）

会場 プレールーム（体育館2階）

学級 3年 男子 9名 女子 11名 計 20名

授業者 稲吉 匠 教諭

指導者 千原 厚 先生（長野総合教育センター 専門主事）

## 1 題材設定の理由（題材に関わる子どもの実態）

本校では、学校教育目標に「学び合い、認め合い、ひとりひとりがたくましく、みんなが伸びる松川北小学校」を掲げ、「関心を持って授業に取り組み、主体的に学ぶ力（知）」・「自分の良さを知り、友だちの立場に立って考えられる心（徳）」・「生活習慣を整え、体力向上をはかりながら、地域の中で生きる自覚（心体）」の3つを大切に考えている。

学校教育目標を受け、上記のような研究テーマを設定している。ペア学習やグループ学習などの学び合いを大事にし、より深い学びから確かな学力を身につけることができるよう、研究を進めてきている。

子ども達は、図画工作の授業が好きであり、楽しみながら夢中で取り組む姿が見られる。このように、やりたいという気持ちやこんな作品にしたいという願いを持っている子ども達が、素材に主体的に働きかけ、作品や対象との対話・自己との対話・友との対話を進めながら、「こんなふうに考えた」「こうしてみたらどうかなあ」などと、様々な表現を試したり見いだしたりしながらより自分らしい表現ができる力を育てていきたいと考え、本テーマを設定した。

## 2 様々な表現方法を楽しむことができる造形活動とは

- （1）材料や場所などに進んで働きかけ、その特徴をもとに表し方を見つけたり、新しいことを試したりして、その過程の楽しさを味わう。
- （2）特徴を生かし、美しさやおもしろさ、調和的な関係などを発想したり考えたりして、体全体の感覚を働かせる。
- （3）思いを膨らませ、材料を並べる、組み合わせる、環境を造形的に構成するなど、体験を深める。
- （4）低学年は遊ぶ過程を大切に、中学年は試す過程、高学年は生かす過程を大切にする。
- （5）段ボールの教材としての価値は、次のように考える。
  - ① 切る手応えや、切り出した線や形のおもしろさに触れることができる。
  - ② 様々な形や大きさのものを組み合わせることで、形や大きさに変化していくことを体感できる。

- ③ 刃先が鋭利でないものでも切ることができ、軽い割には組み合わせたときに強固なものとなる。
- ④ 友だちの活動を見ながら、「さらに ～ したい」と刺激を受け、活動が広がっていくことができる。

### 3 学習指導案

(1) 題材名 「クミクミックス」 (造形遊び)

(2) 目 標

段ボールを切ったり、差し込んだり、並べたりしながら、いろいろな形を発想して造形活動を楽しむことができる。

(3) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・段ボールに体全体で関わることを通して、様々な形や触れたときの感じ方などに気づいている。</li> <li>・切ったり切り込みを入れたりした段ボールを、差し込んだり並べたりして簡単な立体をつくっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・切ったり切り込みを入れたりした段ボールを、何かに見立てたり、組み合わせ方を工夫したりしている。</li> </ul> <p>(A 表現)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・差し込んだり組み合わせたりしてできる形の良さやおもしろさ、友だちの表現のおもしろさを感じ取っている。</li> </ul> <p>(B 鑑賞)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・段ボールの感触を楽しみ、自ら材料に働きかけ、楽しく造形活動をしようとしている。</li> </ul>

(4) 展開の概要

時間	○学習内容 ・指導	評価の観点
1	○段ボールカッターの使い方を知る。 ・段ボールカッターの安全な使い方を指導する。 ・段ボールの板をいろいろな大きさや形に切ってみることを提案する。 ・段ボールを組み合わせることも提案する。	・段ボールの板を切ったり組み合わせてみる活動を通して、切ったり組み合わせることで形や大きさが変わることに気づける。
2 本 時	○段ボールの板を切ったり組み合わせたりしていろいろなものをつくる。 ・自分がイメージするものを、切ったり組み立てたりして、つくっていくように支援する。	・段ボールの板を組み合わせ、あらわしたいものを工夫してつくる活動に、進んで取り組もうとしている。
3	○友だちのつくったものを見合って、自分の活動のヒントにしていく。 ・工夫している児童のものを紹介し、周りに広める。 ・自分の活動に取り入れたいことがあればヒントにしていくよう伝える。	・形の感じや組み合わせによる感じなどを基に、自分のイメージを持ちながら、段ボールの板を組み合わせでできた形の造形的な良さやおもしろさ、いろいろなつくり方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。

(5) 本時案

① 主 眼

段ボールをいろいろな形に切ったり、どんなふうに組み合わせたりできそうか試した子どもたちが、段ボールを差し込んだり組み合わせたりする活動を通して、形や大きさが変化するよさに気づき、そのおもしろさを感じながら活動を楽しむことができる。

② 指導事項

A表現(2)ア

造形遊びをする活動を通して、身近で扱いやすい材料や用具に十分慣れるとともに、差し込んだり、並べたり、積んだりするなど手や体全体の感覚などを働かせ、活動を工夫してつくること。

③ 本時の位置 3時間扱いの第2時

前時：段ボールカッターの使い方を知り、段ボールの板をいろいろな大きさや形に切ってみた。

④ 指導上の留意点

- (1) 段ボールカッターの使い方を確認し、安全に使えるようにする。
- (2) 段ボールと段ボールカッターの置き場所を決めておく。
- (3) ゴミ袋を用意しておき、小さな段ボール片などは散らかさずその都度捨てるように促す。

⑤ 準備品 ・段ボール ・段ボールカッター


⑥ 展 開

段階	学習活動	予想される児童の反応	○主な発問 ・支援	時間
本 時  導 入	1 前時の活動を振り返り、本時の課題を確認する。	・ 段ボールを組み合わせるとおもしろい形になったりするんだな。 ・ 早くつくりたいな。	○段ボールは組み合わせることで、いろんな形ができますね。自分のつくりたい形をどんどんつくってみましょう。  ・ 前時に切ったり組み合わせたりしたものを見せ、前時の活動を想起させる	5
	学習課題  切った段ボールを差し込んだり、組み合わせたりして、いろいろなものをつくってみよう。			
	2 活動の約束を確認する。		・ 段ボールカッターの安全な使い方を確認する。  ・ 途中で教師が声を掛けたら、活動を止めて話を聞くようにすることを確認する。	
次 時  展 開	4 友だちがつくっている作品を見合い自分の活動のヒントにする。	・ 横に広く組みせている人もいるよ。 ・ ぼくも横に広げてみよう。 ・ こっちにももっとつないでいけそうだな。	○友だちの工夫のよさを見つけよう。  ・ 同じ角度からばかり見るのではなく、少し離れたり視点を変えて見たりするよう助言する。  ○友だちの工夫のよさもヒントに	35

			しながら、活動を続けよう。	
		<b>【評価】</b> 形や大きさが変化する良さに気づくことができたか。そのおもしろさを感じながら活動できたか。		
終末	5 本時をふり返り、学習カードを書く。  6 片付けをする。	・〇〇さんの作品は、自分の作品よりもずっと背が高くてすごい。 ・段ボールの大きさがそろっていてきれいだった。 ・横に長くつないでいったものは、町のように見えてきたよ。	○自分が工夫したことや、友だちの作品でいいなと思ったことをふり返って、学習カードに書きましょう。  ・再利用できるものは、大きさを合わせてまとめさせる。 ・段ボールカッターは数を確認して集める。 ・段ボールの切りくずをきれいに掃除するよう声がけをする	10

## 4 授業の実際

(1) 友と関わらず、1時間一人で活動したY児の事例

導入	<b>稲吉先生&lt;導入にて&gt;</b> 「前の時間いろんなものができたね。(前時の作例を提示)これは段ボールが差し込んであるね。これは段ボールを結んでいるね。段ボールカッターの使い方も大事だったね。安全について確認しよう。途中で先生が声をかけたら手を止めて見てね。」	
	<b>①段ボールを2枚持ってきて作業を開始する</b> ・1枚目の段ボールに付けられた折り目に沿って、2枚目を付けようと考えている。 ・1枚目の下部中央に段ボールカッターでスリットを入れ、2枚目の突起部分を刺し、固定しようとする。 ・固定しようとしている段ボール片が手を離す度に倒れてしまうのだが、その都度起こし、一人で支えながら活動に取り組んでいる。	

・段ボール板に上下2列のスリットを開け、他の段ボール片をベルトのように通しながら、段ボール板同士が動かないように固定しようとする。

②先生が他児童の取り組みを紹介する

・紹介されている子の作品をちらっと見るが、すぐ自分の制作に意識を戻し、活動に集中する。

③一辺が傾いた箱型の制作に戻る

・段ボール板にスリットを入れ、もう一辺の段ボールを差し込み、固定する。

**稲吉先生**

「Yさんがいろんな方法で段ボールをくっつけてるよ！」  
(先生がY児の取り組みを他の子どもたちに紹介する)  
(数人の子どもたちが遠巻きにY児の様子を見る)  
「Yさんの、どんどん大きくなってきたね！」

・『のりしろ』部を折って作り、そこに他の板を合わせながら作ろうとしていく。

・段ボールカッターで板を切る際、板が動いて切りにくく感じる場合は、足で段ボール板を固定しながら切り進めていく。  
(すぐ隣の女子グループは『互いの段ボールに切り込みを入れて差し、つなげる』という活動を行っているが、Y児は『一枚にスリットを入れ、もう一枚を差し込む』という方法にこだわって、その方法のみで制作を進めていく)

・壁のように立てた段ボール板が何度も倒れるが、その都度差し込み直して立てようとする。

※次時の活動へ入っていった。

A photograph showing a male teacher in a dark blue shirt and a young child in a pink shirt and blue shorts working together on a large cardboard box. The teacher is holding a piece of cardboard, and the child is looking on. They are in a room with other children and cardboard boxes in the background.


A photograph showing a young child in a pink shirt and blue shorts sitting on the floor, working on a large cardboard box. The child is using a yellow tool to cut or fold the cardboard. Other children and cardboard boxes are visible in the background.

【考察】

作ってみたい形（一边が斜めに傾いた箱型？）を具現化するため、本活動に没頭していたことは明らかだった。このことから上記①は完全に達成されていると言える。

- ・②については、段ボール板を斜めにカットするその角度を揃えようと取り組んだり、段ボール板を効果的に固定するためのスリットを入れたり、スリットに差し込むための出っ張り部分を切り出したり等、丁寧な加工を試みようとする姿が見られたが、それは「いろいろな形に切る」「どんな風に組み合わせることができるか試す」という姿ではなく、最初から目指す形（作りたい形）があり、それに近づけるために自分が決めたひとつの組み合わせ方（スリット作成→差し込む）で制作を進める姿だったと思われる。②を達成するためには、様々な形状に板を切り出し、そのうちのどれがしっくりくるかを試したり、示範された加工方法や友だちが取り組んでいる段ボール板の組み合わせ方を試したりしながら、自分なりによいと思うものを選択していくような姿を狙う必要があった。
- ・③と④については、段ボールという素材に面白さを感じていたからこそ、あれほどしっかり素材と向き合い、集中力を途切れさせることなく取り組むことができたのだと感じるし、活動に没頭する姿は、真摯に素材と向き合い、素材と対話しながら楽しんで活動に臨んでいる姿であったと言える。

## （２）友と関わりながら、自分の作りたいもののイメージを追求していったＡ児




展 開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「東京タワー」をつくりたいという願いを持っていたＡ児は、ガムテープ等接着材を使わなかったため、カッターで広げた段ボールを箱型に組もうとする。</li> <li>・導入時に教師から紹介があった段ボールの組み方を取り入れ試していく。大きな段ボールであったため一人では思うように扱えない。友だちに支えてもらい切り込みを入れて差し込みをし、面と面を合わせていく。</li> <li>・硬い段ボールは、思うようにいかない。友だちと相談し繰り返し接続部分が頑丈にできるよう試していく。土台となる部分が完成すると次の箱を同様に上につなぎ合わせていく。</li> <li>・つなぎ合わせ形作られた段ボールを見て、その中に体を入れる。自分の大きさとつなぎ合わせた段ボールの高さを比べている。</li> </ul>	
--------	---	--

### 【考察】

- ・つなぎ合わせた段ボールの高さを体全体で感じ自分のイメージしたタワーと重ね合わせ素材との対話をするすることで、自分のつくりたい東京タワーのイメージを確かにし、活動の見通しを持つことができた。
- ・つなぎ合わせ方や高さを友と会話しながら活動したことで、困難な形をつくることができたり、自分の思いを確かにしたりして、時間いっぱい活動に没頭することができていた。



### (3) 材や友だちとの対話を通して新たな価値をつくりだしていく B 児

<p>展 開</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・段ボールを立てて置く（塀）、上に重ねる（屋根）だけで家がつくれると発見した B 児は、自分の発見に「すごいね！」と友だちとその価値を共有し体を小さくして家の中に入ってみる。</li> <li>・実際に組み立ててつくったものの大きさを体感した B 児は「もっと大きな家がつくれるぞ。」と更なる願いを持ち自分のつくりたいもののイメージを広げていく。</li> <li>・家が形作られていく様子を見ていた C 児が、「これは、家の窓になるよ。」と段ボールの中を切り抜いたものを持って来て B 児に手渡す。B 児のつくりたいもののイメージを共有した C 児は、B 児には気付かない「窓」という具体物をつくり、B 児に新たな価値を示した。</li> <li>・B 児は、C 児の窓を取り入れ、大きな家をつくっていく。</li> <li>・さらに、窓は、「扉にもなるよ。」という別視点での見立てから家の扉となり、大きな家が完成した。しかし、接続部分がなく、ただ立て並べられただけでつくられた段ボールの家は崩れた。</li> <li>・B 児は、周りの友だちの様子に目を向け「タワーをつくれればいいんだ。」と、新たな発見をする。A 児の面と面を組み合わせつなぎ合わせる良さを実感し、新たな願いをもった。</li> </ul>	  
----------------	---	--

#### 【考察】

- ・窓の発想を共有し、扉の発想へと展開していった B 児と C 児の姿は、造形的な見方・考え方を働かせ B 児、C 児共に双方向に働きかける対話的な学びにより、新たな価値をつくりだしていく深い学びの具現の姿に他ならない。
- ・B 児は、自分の表現したいことについて、友達からの働きかけを柔軟に受け入れたり、周りの様子に目を向け食欲に良さを吸収したりしようとしていた。友との関りが、自分の思いをつなげ、表現の幅を広げていった事例と言える。

### (4) 千原主事先生のご指導から

#### ① 指導案

- ・研究テーマが、全校研究テーマ → 図画工作化研究テーマ とつながっている。研究テーマを具現した研究ができている。
- ・本時案では教師側と子どもの願いとのズレがあった。様々な組み立て方を試行することを教師は願っており、子どもたちの願いは何かものを作ることであった。なぜなら、学習課題が、「～、つくってみよう。」であったから。

「切った段ボールを差し込んだり、組み合わせたりして、いろいろなものをつくってみよう。」



「切った段ボールを差し込んだり、組み合わせたりしてみよう。」

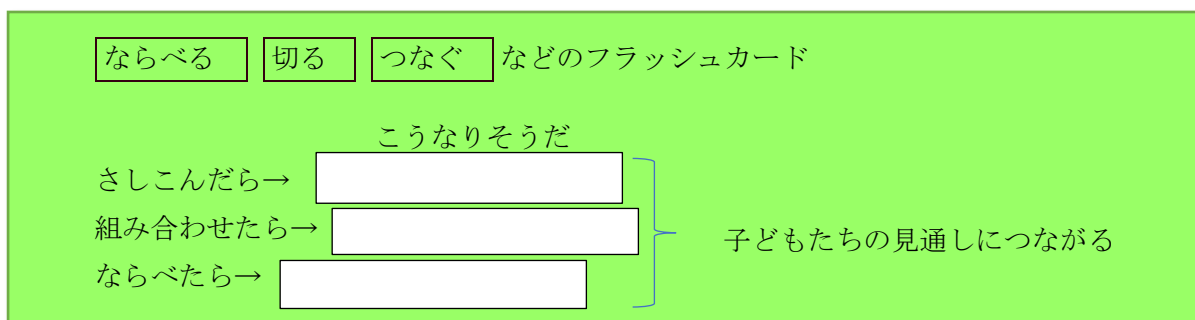
「ならべたり、つないだりして何ができるだろう」

(主事先生の案)

#### ② 導入部分

- ・導入で見通しを持たせる。切って何ができそう？」「差し込んで何ができそう？」などの教師側

からのメッセージを大切にしたい。変化する良さに気づいていけるようにする。  
板書例



- できあがっていく形のおもしろさ 変化する形のおもしろさ に着目させる
- ③ プレールームでやった意味
    - ・ その場所の特徴を生かして、空間に働きかける。（高学年）  
3年生くらいから意識させる。それが如実になるのが造形遊び（中学生＝社会に働きかける）
  - ④ 造形遊びの教育的価値
    - ・ 友との関わり。友の良さを取り入れる。友の発想を自分に取り入れる。
    - ・ 3年生の人間関係が良い。（学級経営の良さ）対話的学びが具現化された活動であった。
  - ⑤ 図工は自分で作ったものを作りかえること、学んだよさを使って他にはどんなものができるかを考えることが大切になる。

## 5 事前研究から見えてきたこと

- 限られた中ではあったが、友との関りが思いをつなげ、広げていくことに、大変有効に働いている様子を見ることができた。人数に対して、用意するスペースも、友と自然に関わったり、友の活動の様子を見合ったりするためにちょうど良い広さというものがあることが見えてきた。
- 授業者の先生が、子どもたち一人ひとりに話しかけ、取り組みの良さを認める声掛けをしていた。また、その子の良さを広げようと、クラス全体へ紹介する時間を度々とっていた。このように関わることで、授業者は子どもたちの取り組みを把握し、同じような取り組みをしている子どもたちに関わらせ、活動を広げるきっかけをつくることもできる。授業のねらいにそった声掛けができるように、準備していきたい。
- 今回扱った段ボールが、子どもたちにとって初めて出会う素材だったため、「クミクミックス」でねらっていた「組んでいくことで広がる良さ」以外に、並べたり、立てたり、重ねたりする面白さの方に活動が広がっていく子どもたちが多く見られた。題材を選定する際に、子どもたちの素材に対する経験をもとに、どのような活動が予想されるかを十分に検討し、素材との出合わせ方、発問の仕方、声掛けの仕方を変えていく必要がある。
- 本時は、学習課題で「いろいろなものをつくってみよう」と投げかけ、本時の教師の願いも同様であったため、多くの児童が「つくりたいものをつくる活動」に取り組んでいた。しかし、指導案の主眼は、造形遊びのねらいが示されていたことで、本時のねらいがあいまいになり、評価の観点や方法もぶれてしまう。造形遊びと表現の活動は、時として曖昧な線引きがされてしまうこともあるが、まずは、本時のねらいを明確にして授業作りを見直す必要がある。
- 造形遊びで思いをつなげたり、広げたりすることをねらう場合、やはり制作過程に於いて、友と自分の作品をつなげてみたり、友の取り組んでいる制作（加工）方法を試してみたり、互いの制作について意



見や感想を述べ合ったりしながら「友の良さや自分の良さに気づくこと」が必要不可欠である。感染症対策で、限界はあるが、できるだけ友と関わる方法を考え、授業づくりに取り組んでいきたい。